2412No.99

KAMA ちゃんの「廃棄物ひとくちコラム」

もしトラからまたトラへ

～温暖化防止対策について思うこと～

先月行われたアメリカ大統領選挙では、ドナルド・トランプ氏が圧倒的勝利を収めて、大統領の座に返り咲くことが決定しました。夏頃からトランプ氏の優勢が伝えられ、「もしトラ」という話題もあちこちから聞こえてきましたが、いよいよ「またトラ」が現実となりました。「廃棄物ひとくちコラム」の題にはマッチしませんが、環境コンサルタントの立場から、地球温暖化防止対策の観点で今回は寄稿させていただきます。

政治面や経済面においては、私は素人ですので、コメントする立場にありませんが、今後の政策について１点だけお願いがあって書かせていただきました。それは、「パリ協定」の堅持についてです。報道では、大統領復帰すれば直ちに経済発展を阻害している「パリ協定」から離脱すると報じられています。自由経済の観点で制約が生じることは許されないとの考えかと思いますが、全世界が地球温暖化防止のために二酸化炭素排出量削減に取り組んでいる中で、自国第１主義を掲げ多国間協定を否定する政策は如何なものかと思わざるを得ません。公害のような局地的（限定的）な環境問題ではなく、地球規模の環境問題であり、全世界の理解・協力があって初めて効果が表れるものです。

直近データでは、世界全体で３４３億トン／年の二酸化炭素の排出があると集計され、国別では次表のとおりとなっています。

| | 国名 | CO2 排出量 | 世界に占める割合 |
|---|---|---|---|
| １位 | 中国 | 107.1 億ﾄﾝ | 31.2% |
| ２位 | アメリカ | 48.2 | 14.0 |
| ３位 | インド | 24.6 | 7.2 |
| ４位 | ロシア | 17.0 | 5.0 |
| ５位 | 日本 | 10.8 | 3.2 |
| ６位 | ドイツ | 6.6 | 1.9 |
| ７位 | イラン | 6.3 | 1.8 |
| ８位 | インドネシア | 6.2 | 1.8 |

排出量世界一の中国を差し置いてアメリカにそれを守れというのも筋違いかも知れませんが、全世界が一致協力して削減に取り組む状況が生まれれば、ダントツの中国も本腰を入れて削減対策に取り組まざるを得なくなります。ここで、アメリカが「や～めた」となれば、他の先進国の二酸化炭素削減対策は、意味のないものになってしまう恐れがあります。また、皆さんが目指している SDGｓの取組も虚無なものになってしまいます。

地球温暖化防止の取組は、今まさに待ったなしの状況に迫られています。猛暑の頻発やゲリラ豪雨の来襲などは明らかに温暖化の影響と考えます。アメリカにおいても度々の大型ハリケーン来襲によって甚大な人的・物的被害が生じており、いわばしっぺ返しの形で莫大な損失を被っているのです。

国連が掲げる 2050 年カーボンニュートラルの目標が達成されてもなお、何十年かは温暖化の危機に直面すると言われている現代、持続可能な地球環境を維持していくためにも、世界各国の協調・努力が必要であることを再認識させられる「またトラ」の登場です。